文化創造活動担い手育成事業と芸術文化創造センター組織体制の考え方について

資料２

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
整備	基本構想	基本計画 文化振興ビジョ	設計者選定 管理運営計画 （基本計画レベル）	基本設計 管理運営計（実施計画）	実施設計 ①運営組織のあり方の検討 ②施設設置条例の検討 運営方式の決定	建設工事	設置条例制定 竣工	開館準備 開館
担い手育成事業予算→自主事業費	【平成23年度】 ***アウトリーチ*** ・学校アウトリーチ（10本） ***ワークショップ*** ・アートマネジメントWS（入門編） ・文化情報紙制作WS ***鑑賞事業*** ・神奈川フィル　ブルーアイランド（※共催） ・カルテット・スピリタス （市民による音楽フェスティバル）		【平成24年度】 ***アウトリーチ*** ・学校アウトリーチ（19本） ***ワークショップ*** ・アートマネジメントWS（実践編） ・チラシ作成WS ・音響技術WS ・文化情報紙制作WS ・子ども美術WS（3本） ・子ども尺八WS（※補助） ・子ども和太鼓WS（※補助） ***鑑賞事業*** ・おだわらっ子夏休み音楽会（WS） ・柳家三三・小宮孝泰・山本光洋 ・神奈川フィル「第九」（※共催） ・藤原真理チェロ ・神奈川フィル林英哲・三橋貴風（※補助） ・地域創造音楽活性化事業（※補助） （市民による音楽フェスティバル）	【平成25年度】 ***アウトリーチ*** ・学校アウトリーチ（30本） ・病院・福祉施設等でのアウトリーチ（1本） ***ワークショップ・セミナー*** ・文化セミナー開催事業（3本） ・子ども美術WS（4本） ・長唄三味線WS ・アートマネジメントWS（基礎編・実践編） ・チラシデザインWS ・文化情報発信WS ・日舞WS（※補助） ・ダンスWS（※補助） ・ミュージカルWS（※補助） ・音響技術WS（※事業協会） ***鑑賞事業*** ・宮本亜門ミュージカル（※補助） ・地域創造ダンス活性化事業（※補助） ・地域創造音楽活性化事業（※補助） ・アートマネジメントWS実施鑑賞事業 ・神奈川フィル宝くじ鑑賞事業（※補助） ・かもめ図書館若手支援コンサート ・（市民による音楽フェスティバル）	【平成26年度】 ***アウトリーチ*** ・学校アウトリーチ（27本程度） ・病院・福祉施設等でのアウトリーチ（1本） ***ワークショップ・セミナー*** ・長唄三味線WS ・能狂言※補助） ・日舞WS（※補助） ・子ども美術WS（4本程度） ・アートマネジメントWS（基礎編・実践編） ・チラシ制作WS ・ダンスWS ・演劇WS（※補助） ・地域資源発掘WS ・文化情報発信WS ・文化セミナー開催事業（4本程度） ・音響技術WS（※事業協会） ***鑑賞事業*** ・親子向けクラシックコンサート（※共催） ・簡易オペラ ・ジャズ公演 ・地域住民のためのコンサート（※補助） ・宝くじ文化公演神奈川フィル（※補助） ・かもめ図書館若手支援コンサート ・（市民による音楽フェスティバル）	市民ホールから「芸術文化創造センター」へ ・芸術文化を鑑賞する ・芸術文化を生み出し創り上げる 【7つの事業方針】 ・そだてる＜育成普及＞育成普及事業 ・つくる＜市民参加＞参加事業 ・つたえる＜地域特性の発信＞地域発信 ・出会う＜交流促進＞交流事業 ・たのしむ＜質の高い催し＞鑑賞事業 ・にぎわう＜にぎわい創出＞催しものがなくても立ち寄れる ・ひろげる＜利用促進＞・・施設提供事業		≪にぎわう≫ フェスティバル・地域連携事業・ロビーコンサート ≪つくる≫ 市民参加制作事業（オペラ・ミュージカル）・市民企画提案事業 ≪ひろげる≫ 施設提供事業（新規利用の促進、舞台スタッフによる技術指導、支援、助言） ⇩ ≪つたえる≫ 地域文化資源の発掘・活用事業（講座・ワークショップ・アウトリーチ） ≪出会う≫ 創造スタッフ室の運営・学校、大学連携事業
	1,450千円	4,482千円	6,720千円	7,937千円				

土壌づくり～種まき～芽吹き → 育てる～花ひらく～収穫へ

開館前から既存施設を活用し、開館に向けた「基礎づくり」事業を行う。

ヒューマンウェア

【開館後の自主事業のイメージ】
- 鑑賞公演（１２本程度）
- 企画展（1～2本）
- アウトリーチ（通年）
- ワークショップ（6本程度）
- 中間支援人材育成ワークショップ（3本程度）
- 市民参加制作事業（1～2本）
- 市民企画提案事業
- 地域発信事業
- 交流事業
- にぎわい創出事業（フェスティバル）
- 施設提供事業

【暫定組織の専門人材】

将来の運営母体を先取りした専門人材の確保により、開館前からの計画的な事業実施が可能となる。

館長候補者の検討 → 館長候補者

○人材イメージ：行政と市民で定めた管理運営計画を基礎としながら、より魅力のある事業企画の方針決定、施設運営での経営的な能力、アートマネジメントの観点などを持ち、総合的な判断が下せる専門職
○メリット：運営母体の組織づくりにおいて、館長の方針に合った専門人材を集めやすい。また、開設準備業務から開館まで円滑に事業を進めやすい。

任期付職員として採用：舞台技術チーフ候補者

○人材イメージ：ホールの現場の動きを想定し、設計にアドバイスできる専門人材
○メリット：現市民会館の利用状況を把握したうえで、設計へのフィードバックが可能となる。また、新たに取り組む市民参加事業や制作事業には舞台技術者は必須である。チーフを組織内に確保することで、外部委託スタッフと一体となった運営が可能となる。

事業内容や本数、組織整備に合せて段階的に専門職を配置する。

任期付職員として採用：事業制作スタッフ

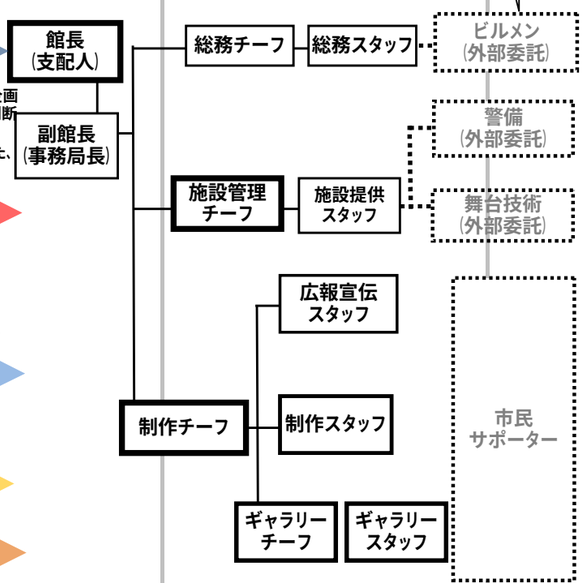
○人材イメージ：将来の運営母体において、主に、自主事業の企画・立案・制作ができるような即戦力になる専門職
○メリット：開館前から、開館後の運営を意識した事業を効率的に行うことができる。また、ホールの運営計画づくりに参画することで、現場経験に基づいた事業計画として、実現性の高いプランとすることができる。

任期付職員として採用：アートマネジメント専門職員

市職員

○人材イメージ：市の文化政策、ミッション、整備計画等の策定、総務系（庶務・会計・人事）の仕事を行う人材
○メリット：芸術文化と行政とをつなぎ、開館までに環境整備を行う。文化振興に係るミッションを開館後の事業・仕組みを具現化する。専門人材等を総務系職種として統括する。

美術系スタッフ

人材イメージ：企画展や美術系のワークショップなどの企画・立案・制作の即戦力になる専門職員
メリット：市美術展などの美術系既存事業も整理することや、成果が出るまでに時間がかかる育成普及型事業などを開館前から計画的に重点実施することができる。

【運営母体の組織構成（案）】